

学 校 教 育 目 標	笑顔あふれ 瞳かがやく子の育成 ～あふれる笑顔、かがやく瞳～
目 指 す 学 校 像	自ら考え、行動できる自立・自律した個の確立
重 点 目 標	1 自ら考え、主体的に学ぶ児童を育成する。 2 丁寧な児童理解にもとづく積極的な生徒指導を推進する。 3 保護者・地域とともに自ら考え行動する児童を育成する。 4 学校安全体制の充実を図る。 5 自他のよさを伸ばし、自立・自走する教育のプロを育成する。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	学びの質の向上に関する取組 <現状> ・学びのポイントを活用した授業改善を進めたことで、学校評価において、「授業中は一生懸命学習している」に肯定的な回答をした児童が96%となった。 ・学びの指標の学習者用アンケートの実施及び授業者用チェックリストの活用により、振り返りを行い、授業の工夫・改善に取り組んだ。 <課題> ・スクールダッシュボードの有効活用について検討を進め、主体的に学ぶ児童の育成に取り組む	・主体的に学ぶ児童の育成 ・個別最適な学びと協働的な学びの充実	①学びのポイント「じ・し・ゃ・く」の実践及びスクールダッシュボードの活用により、授業改善を進め、主体的に学ぶ児童を育成する。 ②学びの指標の学習者用アンケートと授業者用チェックリストを実施し、授業の振り返りと改善に取り組む。 ①学年で授業づくりについて研究する時間を校内研修に位置づけることで発達段階を踏まえた授業改善を実現する。 ②カリマネデザインマップに基づき、単元ごとの振り返りを行い、授業改善に取り組む。	・学びのポイント及びスクールダッシュボードを活用し、授業改善を進めることができたか。 ・学びの指標の学習者用アンケートを実施し、授業者用チェックリストと併せて活用し、授業の振り返りを行うことができたか。 ・学年で授業づくりについて研究する時間を学校課題研修に位置付けることができたか。 ・単元ごとの振り返りを行い、教科間の関連も踏まえた授業改善に取り組めたか。					
2	子どもの発達や心をサポートに関する取組 <現状> ・学年会を週1回設定し、児童に関する情報交換の時間を確保した。 ・児童理解部会を月1回開催し、生徒指導及び教育相談に係る情報を共有し組織的対応に努めた ・通知票発行回数等について保護者の皆様に御理解をいただき、子どもと向き合う時間に多少の余裕が生まれた。 <課題> ・おはようメーターの有効活用。	・学年を中心とした児童の実態把握 ・生徒指導と教育相談の両面から行う支援の充実	①学年会の週1回設定を継続し、課題や懸案事項への対応を担当だけでなく、学年単位で行っていくようにする。 ②緊急度の高い内容については、管理職も交え速やかに対応にあたる。 ①児童理解部会を月1回開催し、生徒指導及び教育相談に係る情報を共有し組織的に対応する。 ②内容に応じて、関係機関と連携を図り専門的な対応に繋げていく。	・学年会において、情報交換の時間を設け、児童への対応について検討することができたか。 ・緊急度の高い内容については、速やかに管理職と情報を共有し、対応することができたか。 ・児童理解部会を定期的に開催し、必要な情報を学校全体で共有することができたか。 ・必要に応じて、関係機関と連携を図ることができたか。					
3	地域とともにある学校づくりに関する取組 <現状> ・立地を生かして、多方面の方々に学校運営協議会委員になっていただき、様々な面で連携・協力をすることができている。 ・学校運営協議会において、学校と地域が一体となった児童の育成について熟議している。 ・アプリ導入により、お知らせや情報をスピーディーに発信できるようになった。 <課題> ・学校運営協議会への児童の参加等、児童と地域の方が対話する機会の設定。	・地域の特長を生かした教育活動の実施 ・地域に愛着を育む教育活動の推進	①学校運営協議会委員の皆様をはじめ、幅広く連携・協力を依頼することで児童が体験から学ぶ機会を確保する。 ②学校運営協議会を軸に学校経営及び学校運営の課題について、学校・保護者・地域が一体となって改善していく。 ①学校運営協議会への児童の参画を実現させ、児童の視点や考えも大切に熟議を実現する。	・地域の公共施設や企業等に幅広く連携・協力を依頼し、見学や体験的な活動など児童が地域から学ぶ機会を設定できたか。 ・学校運営協議会を年間3回開催し、学校経営及び運営について、熟議できたか。 ・学校運営協議会に児童が参画する機会を設けることができたか。					
4	教育環境の整備に関する取組 <現状> ・新校舎について、避難経路の設定等を円滑に行えた。安全対策を講じるべき箇所があった際は、業者と連携し速やかに改善を図った ・第2給食室建設について、保護者・地域へ学校だよりで適宜情報提供を行い、完成を迎えた。 <課題> ・前例のない給食室2か所稼働の開始に伴う、安心安全な給食提供の徹底。 ・限られたスペース（校庭・体育館・プール）での体育経営。	・安心・安全な教育環境の実現 ・児童数増加という現状を考慮した、教育環境の活用	①前例のない給食室2か所稼働の開始に伴い、2倍になる施設管理と衛生管理について、調理業務委託業者や関係所管と連携を図り、安心安全な給食提供を実現する。 ①校庭や体育館、図工室等の特別教室の使用について、随時調整を行い、限られた教育環境を有効に活用する。	・調理業務委託業者や教育委員会所管課と連携を図り、施設管理及び衛生管理を適切に行うことができたか。 ・不具合が生じた際には、速やかに改善に向けた対応ができたか。 ・限られたスペースや特別教室の中で事故のないように活動場所の調整を行うことができたか。					
5	教職員のキャリア形成に関する取組 <現状> ・教育委員会の指導主事、大学准教授に加え、企業役員を指導者として招聘し、授業の工夫・改善及び児童とのかかわり方について研修を進めている。 ・学校評価アンケートにおいて、教職員研修の充実に関する項目及び会議の運営に関する項目は、ともに肯定的な回答が80%であった。 <課題> ・職員に過度な負担が生じないよう、働き方改革も意識して取り組み内容を検討する。	・自立・自走する教育のプロを育成する ・OJT等学びのある職場環境を推進する	①外部講師を招聘した研修会を行い、授業の工夫・改善や子どもとのかかわり方のスキルアップに取り組む。 ①任意参加のミニ研修会など、職員が講師になり自分の経験や学びを同僚に伝える機会を設けることでOJTを進める。 ②職員各自が働き方改革の意識をもって業務にあたり、過度な負担なく、学べる職場としていく。	・外部講師を招聘した研修会を実施し、授業の工夫・改善に取り組むことができたか。 ・職員が講師となるミニ研修会の開催を進め、学びのある職場環境づくりに取り組むことができたか。 ・学校課題研修やミニ研修会など、過度な負担とならないような運営ができたか。					

